

パレオアジア 2018 PaleoAsia 2018

公開講演会

アフリカから アジアへ

現生人類の起源と拡散

参加無料
申込不要
定員：200名
同時通訳



3万5千年前の石斧
鈴木遺跡(東京都小平市)出土

日時

2018

12.15^土

13:00-17:00

会場

国立京都国際会館

〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町422番地

地下鉄烏丸線「国際会館駅」から徒歩5分 出入口4-2直結

問合せ先 PaleoAsia事務局 paleoasiaproject@gmail.com

主催 文部科学省 科学研究費補助金 新学術領域研究(研究領域提案型)平成28~32年度「パレオアジア文化史学 アジア新人文化形成プロセスの総合的研究」総括班

共催 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 コアプロジェクト「環境社会課題のオープンチームサイエンスにおける情報非対称性の軽減」

PaleoAsia 2018-2020
パレオアジア文化史学
Cultural History of PaleoAsia

公開講演会

アフリカから アジアへ

現生人類の起源と拡散

2018
12.15(土) 13:00-17:00



3万5千年前の石斧
鈴木遺跡(東京都小平市)出土

ヒトの歴史は600万年前あるいはそれ以上も前のアフリカにさかのぼると考えられています。以後、いくつもの集団がアフリカに誕生し、次々にユーラシア各地に拡散しました。その際、ネアンデルタール人やデニソワ人など、それ以前から各地に拡がっていた先住集団と交替劇を繰り広げたと考えられています。

しかしながら、現在、地球上にいるのは私たち、つまり現生人類しかいません。現生人類が生まれたのは20数万年前のアフリカとされています。その後、いつ、どうやってアフリカを出て、アジアへ、そして、日本列島にまで拡がってきたのでしょうか。そして、その間、何が起こったのでしょうか。

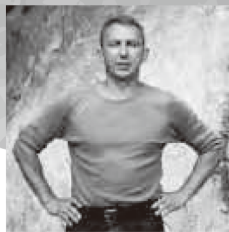
この公開講演会では、私たち日本人のルーツにもかかわるこの問題を最新の考古学的人類学的知見をもって調べている研究プロジェクト「パレオアジア」について紹介し、その成果と展望についてお話しします。

プログラム

- 12:00- 受付開始
- 13:00-13:30 **「パレオアジア・プロジェクトとは」**
西秋良宏(東京大学教授)
- 13:30-14:15 **「現生人類がアジアで出会った旧人たち -ネアンデルタール人、デニソワ人、そして・・・」**
A. クレヴォシャプキン(ロシア、ノヴォシビルスク考古学・民族学研究所 副所長)
- 14:15-15:00 **「現生人類はいつ東アジアにやってきたのか -中国大陸での新発見-」**
R. デネル(英国、シェフィールド大学教授)
- 15:00-15:15 休憩
- 15:15-16:00 **「アフリカを出て日本列島へたどり着いた3万年前の祖先たちの物語」**
海部陽介(国立科学博物館 人類史研究グループ長)
- 16:00-17:00 質疑応答



西秋 良宏
東京大学教授



A. クレヴォシャプキン
ロシア、ノヴォシビルスク考古学・民族学研究所
副所長



R. デネル
英国、シェフィールド大学教授



海部 陽介
国立科学博物館
人類史研究グループ長